

【教育課程】

Q1.「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を教育課程にどのように位置づけているか。  
具体的な活動を教えていただきたい。

A. ①健康な心と体

・園生活の中で期待感・満足感を持って自分のやりたいことに向かい、心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していけるようになる。

◎具体的活動

- ・手洗い、うがいの励行・衣服の着脱による体温調節
- ・災害時の避難方法・不審者への対処方法
- ・水分補給 ・身体測定 ・交通安全教室 ・給食

②自立心

・身近な環境に主体的に関わり、色々な活動や遊びを生み出す中で、自分の力で行うために思い巡らす等して、自分でしなければいけないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げることで、満足感や達成感を味わいながら、自信をもって行動する。

◎具体的活動

- ・製作など遊びの中で、自ら工夫しながら活動し、友達とアイデアを共有する。
- ・園内のルール(室内や階段は走らない等)に沿って、自ら約束事を守ろうとする。
- ・一つのことを最後までやり遂げる大切さを知る。
- ・折り紙 ・パズル ・アスレチック遊び

③協同性

・友達との関わりを通して、お互いの思いや考えなどを共有し、それらの実現に向けて工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げる。

◎具体的活動

- ・リレー遊び ・バルーン遊び ・組体操

④道徳性・規範意識の芽生え

・して良いことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけながら決まりを守る必要性が分かり、決まりを作ったり守ったりするようになる。

◎具体的活動

- ・長縄遊び ・組体操 ・椅子取りゲーム

#### ⑤社会生活との関わり

・家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、色々な人と関わりながら自分が役に立つ喜びを感じ、地域により一層の親しみを持つようになる。

##### ◎具体的活動

- ・「ファミリーデー」・・・家族の話をする→プレゼントを作る→喜んでもらう。
- ・デイケア訪問 ・敬老の日のハガキ ・桜島大根の収穫 ・いもほり ・もちつき

#### ⑥思考力の芽生え

・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりする中で、予想したり工夫したり多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとしたり考え直したりし、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをより良いものにするようになる。

##### ◎具体的活動

- ・小動物の観察、飼育 ・シャボン玉遊び ・ボディペインティング ・雪遊び

#### ⑦自然との関わり・生命尊重

・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、好奇心・探求心を持って、身近な動植物・命あるものに親しみや労り、大切にしたい気持ちを持つようにする。

##### ◎具体的活動

- ・小動物への観察・飼育 ・天気の変化(日々の天気の確認) ・水遊び ・雪遊び
- ・アサガオの種まき ・桜島大根の種まき

#### ⑧数量や図形・標識や文字などの関心・感覚

・遊びや生活の中で数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字などの役割に気付いたりして、必要感からこれらを活用することを通して、数量・図形・文字などへの関心・感覚がより一層高まるようになる。

##### ◎具体的活動

- ・SI あそび ・積み木 ・パズル ・絵本 ・朝の会(日時・曜日の確認)

#### ⑨言葉による伝え合い

・保育者や友達などと心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなど言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

##### ◎具体的活動

- ・絵本 ・劇遊び

⑩豊かな感性と表現

・心を動かす出来事などに触れ、感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだり表現する喜びを味わい、意欲を持つようになる。

◎具体的活動

・朝の会で季節の歌 ・楽器遊び ・粘土遊び

※1つのあそびの中には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の②③⑥⑦⑩の姿が基本的に入っています。

※未満児…日々の生活の中にもねらいや目標があります。周囲との愛着関係の構築に始まり、少しずつ身の回りのことをできるよう援助しながら生活習慣が身につくようにしていきます。できるようになったことを十分に褒めて喜びを共有しながら達成感を味わえるよう保育計画を考えています。

Q2. 幼稚園でのひらがなや数字など教育面での指導方法について知りたい。

A. 数字は、指あそびやうたなどを用いて小さい年齢から触れています。ひらがなは、絵本などを通して小さい年齢から目に触れています。数字・ひらがなともに年少さん頃から書くことにも興味を持ち始めます。年長さんになると、小学校に向けて書き順や足し算などについて学ぶ時間があります。小学校の先生からは、自分の名前は書けるようになってほしいと言われています。

Q3. 独自の取り組みがあれば教えてください。

A. S Iあそび、英語あそび、体操教室、水泳教室、ふくふくデー

Q4. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、具体的にどのような姿なのか。

A. 健康でたくさんの方に興味関心をもち、自分を大切にしながら生きていく姿。

Q5. 幼稚園指導要領と小学校学習指導要領の違いについて知りたい。

A. 幼児期の子どもたちは、遊びながら様々な資質や能力を身につけているが小学校以降は学びや育ちが点数化されたり行動内容によって判断評価されたりする。どちらも“学び、”育ち、は共通だが、その質が違っていると思う。

【基本的な生活習慣】

Q1. 望ましい生活習慣確立のための幼稚園の取り組み。

A. 園ではデイリープログラムがあるが、絶対的なものではないので日々、臨機応変に対応

している。家庭保育を含めての生活習慣だと思うので、連絡ノートや送迎時など保護者との連携も大事に考えている。

Q2. 夜寝るのが遅い子や携帯ゲーム依存症の子などの家庭の生活環境に課題のある保護者への対応。

A. 寝るのが遅かったり、タブレットで動画を見たりしていて、園生活に支障があった場合（日中も眠たそうにしている、注意散漫である…など）に保護者に家庭での様子を聞き、家庭でできる範囲で就寝時間を早めたり、動画の視聴時間を制限したりしてもらえるようお願いしてみることもあります。

Q3. 幼稚園で基本的な生活習慣について意識して指導している内容を知りたい。

A. 主なものとしては、食事・排泄・着替えです。食事は、年齢を重ねるごとに自分で食べられるように（皿を持つ・お箸で食べる・こぼさず、お皿をきれいにして食べる）しています。排泄は、オムツからトイレトレーニングを行い、年少さんの間にオムツが外れるようにしています。着替えは、ボタンのつけ外しや着脱、脱いだ服を畳むなど自分でできるようにサポートしています。最近では、トイレトレーニングも1歳児（1才～2才）は早すぎるという考えもあるようなので、無理は強いはず、ゆっくり進めていくようにしています。

Q4. 幼稚園でも、ハンカチ・ちり紙を持たせているか。

A. 園として持ってきてくださいとお願いはしていません。ハンカチの代わりに、お手拭きタオルを持って来てもらい、タオルかけにかけて手洗い後など使用しています。ちり紙の代わりに、各保育室にティッシュペーパーがあるため必要なときはそちらを使うようにしています。ただ、保護者の判断などでハンカチやポケットティッシュを持ってきているお子様もいます。

Q5. 「早寝・早起き・朝ごはん」など意識して取り組んでいることがあるか。

A. 園では取り組んでいませんが、家庭での子どもたちの成長と基本的な生活習慣を送るうえで「早寝・早起き・朝ごはん」が大事であることは園から発信しています。

Q6. 整理整頓を身につけさせるために、工夫していることや大事にしていること。

A. 年少・年中・年長児は、自分のロッカーに制服やカバンをかけているので、制服やカバンを乱雑に置いてしまうと服やカバンがシワシワになったり、気持ち的にもいいものではないことを子どもたちが自ら気づけるように声かけをしています。自分で気づいて整理整頓ができたときにはたくさん褒め、自分の行動に自信がもてるようにしています。

## 【保護者との連携】

Q 1. 保護者の方々と連携するうえでどのようなことを大切にしているか。

A. お子様の様子を共有できるように、お迎え時に口頭でその日の様子をお伝えしたり、連絡帳、電話や手紙（アプリ）などを用いてやりとりできるようにしています。大事なことをお伝えする際は、できるだけ顔を合わせて言葉でお伝えして信頼関係が築けるようにしています。

Q 2. 保護者との連携で連絡帳を使うと思うが、連絡帳は毎日全員に記入しているのか。

A. 0・1・2歳児のお子様は、おやつや給食の食べた量や睡眠の時間、排泄の有無などを記入するため毎日全員記入しています。保護者の方々も家庭でのご飯の献立や睡眠時間を毎日記入していただいています。年少・年中・年長児は、基本的に保護者の方から連絡事項があったときのみ記入していただき、それに対してお返事したりその日のお子様の様子を記入したりしています。

Q 3. 幼稚園側と保護者はどのような協力をするのか。

A. 父母の会という組織があります。会長・副会長を中心に園内行事に参加協力をお願いしたり父母の会向けの研修等に参加していただいています。具体的活動として、会長・副会長には運動会や卒園式で挨拶をいただいたり、父母の会では分担して研修に参加していただいております。また、園に出向いて絵本の読み聞かせをしていただいたりもしています。負担のないようお願いしています。

Q 4. 特別な支援が必要な園児には、どのような支援をしているか。

A. 療育に通っているお子様は、療育機関と連携を図りながらそれぞれのお子様に適切な関わりを行い、クラスや学年、園全体の職員とも共通理解を図りながらその子に合った保育を行っている。また、園には特別支援員も在籍しており、支援員からのアドバイスもいただいている。

Q 5. どのようなことで連絡が来るか。

A. 様々です…園からは園だよりや年間行事予定などで計画をお伝えしていますが、詳細を訊ねられたり、日々の生活では遅刻・早退・欠席など…。

Q 6. 小学校入学に向けて、保護者も一緒に取り組んでいることがあるか。

A. 食事、排泄、着替えが自立できるようにする。食事については、25分ほどで食べ終われるようにする。家から小学校までの通学路を事前に親子で歩いてみる。

Q7. 保護者対応で難しく感じることは、どのようなものがあるか。

A. お子様が必要な支援がある場合、保護者の方がお子様の姿についてなかなか受け入れてくださらないことがあり、療育や就学相談について話が進まないことがある。

Q8. 保護者の関係づくりにおいて、重要視していることは何か。

A. 最も大事なことは信頼関係だと思うので、直接顔を合わせてコミュニケーションを図ることが大切だと思います。笑顔で明るく澁漉な姿勢で接し、謝罪が必要な場合は誠心誠意を込めて謝ることが大事だと思います。

#### 【幼保小連携】

Q1. 円滑な接続を踏まえた5歳児のカリキュラムを実践するにあたって大切にしていることは何か。

A. 入学してから困らないよう、小学校で大切にしていることや、必要なことを日々の生活で少しずつ取り組めるようにしています。時計を見て行動・自分の名前の読み書き・牛乳パックの開閉など…。

Q2. 幼小連携における課題を教えてください。

A. 打ち合わせや連携で得た情報を他学年と共有する時間の確保が難しいです。

Q3. 年長クラスの園児に対して、小学校への進学に向けての指導の内容。

A. 給食を最終的に20分ほどで食べ終われるようにする。自分の名前がひらがなで書けるようにする。保育者の話に耳を傾け、落ち着いて行動できるようにする。

#### 【園児との接し方、指導の在り方】

Q1. 休みがちな園児とその保護者への対応。

A. 登園した時には楽しく過ごしてもらえよう、様子をみながら友達との仲立ちをしたり援助しています。保護者の方々へは園での様子をお伝えしたり、お休みが長い時に電話にて様子をお伺いしています。

Q2. したくないこと（活動）をしてくれないときには、どのように対応しているか。

A. 活動内容にもよりますが、無理に参加させることはしないようにしています。その子の様子を見守りながら声をかけ、気持ちが落ち着いたり、気分が変わったりしたときは活動の中に入れるよう援助しています。

Q3. 小学校で学習する際の素地となる部分を、あそびを通してどのように育んでいるか。

A. 子どもたちの、遊びの全てが様々に関わり合い、絡み合いながら学習の素地になるのではと思います。

Q4. 園児間でのトラブルや保護者対応について、小学校と違う視点があるのかを知りたい。

A. 子ども同士であっても、怪我や事故があってはいけないので、保育室には職員が空けることがないよう内線等で協力をお願いしたり、トラブルの状況は口頭もしくは電話にてお伝えしています。

Q5. 幼児への叱り方で、気をつけていることは何か。

A. 感情で「怒る」のではなく、どうしていけないのか自分で気づけるように話をしています。その後、何か褒めることがあった場合は、たくさん褒めて自己肯定感を高められるようにしています。

Q6. 感情を言葉で表現できない園児への言葉のかけ方。

A. 必要以上に声かけするのではなく、その子のそばに寄り添ったりスキンシップをとったりする中で気持ちを理解して援助するよう心がけています。

#### 【給食指導等】

Q1. 保健関係（食育や感染症対策）で気をつけていること。

A. 手洗い、うがいが大切であることはもちろんのこと、こまめに水分補給を摂るように声かけをしています。

Q2. 少食や偏食のある園児への食事指導及びポイント。

A. 楽しい雰囲気ですべてほしいという思いがあるため、無理強いをせず、好き嫌いが多いお子様も一口だけは食べられるように声をかけ、食べることができたときはたくさん褒めたりして、次の食事への意欲につながるようにしています。

Q3. 給食の時間や量はどのくらいなのか。

A. 時間については、2歳児・年少さんは30分程度、年中・年長さんは25分程度で食べ終わるようにしています。量については、年齢に応じて少しずつ多くしていきますが、その子に合わせて最初から少なくついたり、自分から量を減らしに来れるよう声かけをしたりしています。

## 【その他】

Q 1. 業務改善で何かしていることはあるか。

A. 園務分掌を通して仕事の分担をしたり、行事や保育活動に必要な教材の下準備など学年間、職員全体に協力をいただきながら持ち帰りや残業など業務外での負担軽減を図っている。

Q 2. 教育者として、自分の知見を広めるために何か取り組んでいることはあるか。

A. 様々な研修に参加したり、書物を読んだり、SNSなどで保育の技術（指あそび、折り紙、製作あそび…など）を見たりしています。

Q 3. 「あそび」の時間を設定しているが、留意していることは何か。

A. 様々なあそびのコーナー（ままごと、製作、積み木、絵本）を設けて、子どもたちが好きなあそびを自由にあそべるようにし、あそびがつながるように作りかけの積み木や粘土などを壊さずにそのまま置けるようにスペースを配慮しています。また、作った作品（絵、製作物など）を飾っておけるスペースも確保できるようにしています。

子どもたちの「やりたい！」気持ち（主体的）を大切にし、そのことが実現できるように保育者が環境を提供し、整え、思いきりあそび込めるように心がけています。

Q 4. 支援が必要と思われる園児について保護者への最初の説明はどのように伝えているか。

A. 最初は、園での様子を伝えたり家庭での様子を聞いたりしながらお子様の姿の共有につとめています。その中から少しずつ保護者の方から困り感を引き出すようにして、療育に通うことを提案してみたり、園で何か特別な配慮が必要であることを伝えたりできるようにしています。まずは、保護者の方とたくさん関わり、コミュニケーションを重ねて信頼関係を築いてから話を進めるようにしています。

Q 5. 園児に対する園でのルールの守らせ方は、どのようにしているのか。

A. やっていいこととやってはいけないことの区別がつくように言葉で伝えたり、絵や写真、動画など視覚でも分かりやすく伝えるようにしています。また、避難訓練や不審者侵入訓練などでは、実践も交えて理解できるようにしています。